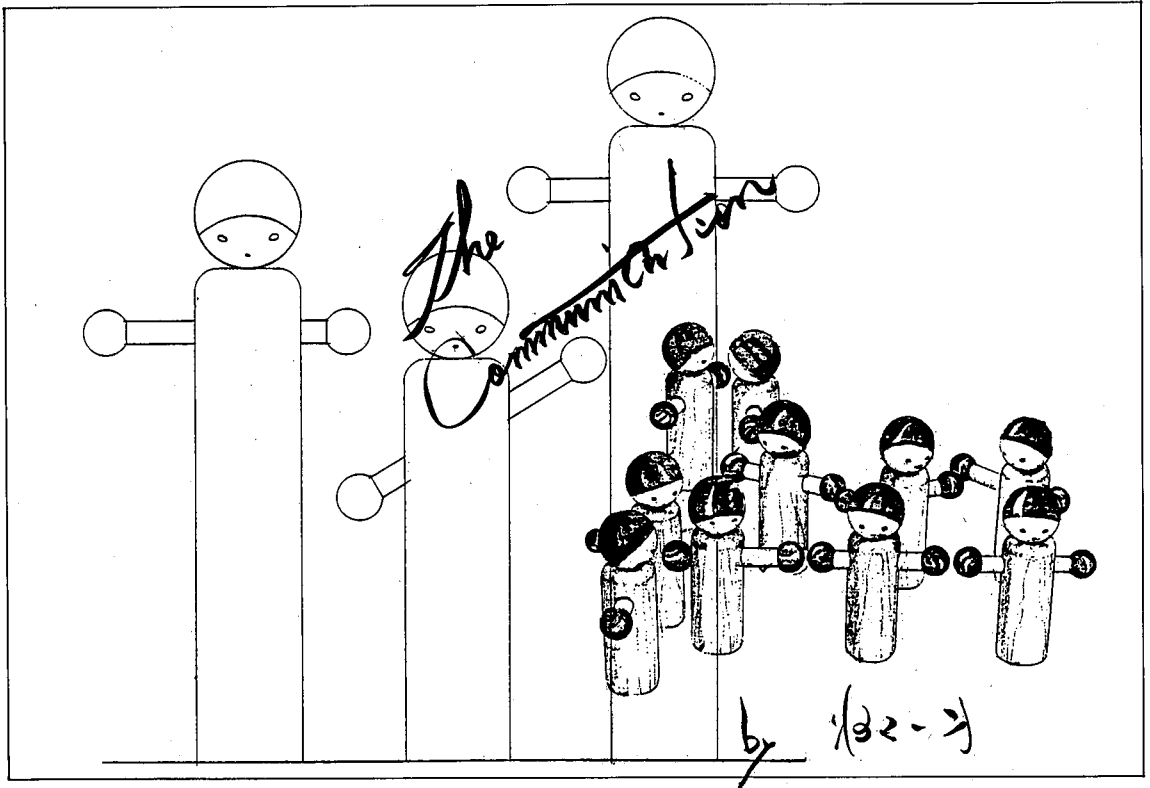


JCD-KANSAI

昭和59年 7月
第 1 号

Japan Commercial Building Designers Association



●一つのアクションを起す

常任理事・情報委員長 太田真昭

個はお互いに関係し相って 存在する原理から 自分を知り、他人を知る、すべてコミュニケーションの大切さと必要性を感じます。機械的に与えられるシステムから 商環境もセルフから対面へ、目的による販売システムも 求極は人が売りが人が買う行為——しかし無店舗販売のシステムも一方でCATVにより実用化の方向をたどる時代になればなるほど、心のつなが

りを大切にする商空間設計の重要性が求められる傾向は大きくなるでしょう。情報を視覚的に//もっと相互のコミュニケーションを活性化させるために協会と会員や賛助会員、会員同志が自主的に交換し合い、さまざまな綾で織りなす立派な美しい織物を完成させるようこの情報誌もこんな気持から委員の声として自主的に発行することになりました。小さな頁ではありますが皆様の手で大きく育てていただきたいと思ひます。

光と影のコミュニケーション



ヒカリ照明器具

小泉産業株式会社

本社 照明・事業部
大阪ショールーム

☎ (06)262-1751 千541
☎ (06)262-0861 千541
☎ (06)262-2412 千541

大阪市東区備後町4丁目43
大阪市東区備後町3丁目 長谷ビル3F
大阪市東区備後町3丁目 長谷ビル2F

●創刊のことは

理事長 渡辺一男

—はじめに言葉あり—

久しぶりに関西支部から情報誌「JCD-KANSAI」が出る事になった。おめでとうと同時にごくろう様と申し上げます。

今、街ではジャーナリストに、あるいは私達デザイナーの仲間の間でいろいろの“ことば”が語られている。旧く、ポストモダン、レイトモダン、アールヌーボー、アートデコ、ハイテック、ハイタッチ、シティタイプ、等々……。

私は常日項、デザイナーという者は設計の段階でいろいろと試行錯誤を重ね、結果として発表した作品がすべてであると思っています。どの様な美辞麗句をもって作家がその作品を語ったところで、その作品そのものが“作品としてのことば”で語られていなければ私は信じないと、かたくなに思いこんでいます。

仕事の都合で海外への旅の多い私は、暇をみても自分の周辺での作品をみて歩きますが、環境も言葉も違う其の土地で、優れた作家の作品はすべての“ワケシリ”を私に知らせてくれます。そしてその度に己れに対してきびしく身を律する想いがします。

“はじめに言葉ありて、作品に言葉なし”ひとりよがりのボキャブラリーでは、どの様にわめいてみても人々に感動を与える事はできません。こんな想いで、この情報誌も“作家のあつまり”である“証し”としての心にひびく“言葉”をぶつけあって、コミュニケートできる作品である事を願つてやみません。

近況としては相変わらず海外での仕事が続いて居りますが、生活者の“安全と人権”を軸にした厳しいコードで規制されるアメリカの“商業施設”亦“商業施設の設計”で生活できないし、その部分に“ペイ”しない経済環境の国東南アジア一帯をみて、まだまだ“ぬるま湯”につかって

いる様な我が国での職能に感謝と同時に自らに警告しながらの仕事の毎日です。

おわりに、この情報誌が、関西人特有の“やさしさ”と“ユーモア”とをベースにした、浪花の源蔵の様な持味あるキャラクターを生かして、気軽に会員相互の“たのしい”心のふれあいの場として愛される事を期待します。

●創刊によせて

副理事長 赤松良一

JCD会員、関係会員の皆さん、お褒りなく御活躍のご同慶にたえません。—既にご存知の通り、JCDも長らくの懸案事項となっておりました関西支部の発足、花房事務局長の勇退、事務所移転など大きい転機の中で、今年度から大菅支部長や中堅、若手会員による各常任委員会を中心に“会員のための地域に密着したJCD”づくりに頑張ってもらっています。

—併しそれら新しい活動もまだごく一部に止まっているようで200名の関係会員に浸透して一つのパワーとなるにはまだ不足と云ったところでは。

そんなところから、全会員の身近な(社)協会のための“JCD-KANSAI”が発刊されることとなりましたことは、誠にタイムリーで、グウでケッコウだと思います。

そもそも我々のジャンルには凶面(手)のたしかな人、ストーリーや計算(頭)の強い人、議論(口)の達者な人と様々ですが、JCD会員の中には今のところ議論の強い人がやや不足どちらかとゆうとオトナシ傾向です。

そんな意味からもこのJCD-KANSAIが我々の論壇として、少々内気な人も考えていること、思っていることをどンドン発表し、又それに反論し、討論するような、ニギヤカなJCDへの一石となることを期待致します。

例によって担当の会員はごくろう様ですが、御健斗をお願い申し上げます。

照 空 間 大 募 集 '84(3rd.)

Nashop LIGHTING CONTEST 実施中!

●お問い合わせは、松下電工・電材事業本部マーケティング部「ライティングコンテスト係」へ。(〒571)大阪府門真市門真1048 ☎06・908・1131

● JCD-KANSAI によせて

関西支部長 大菅満義

JCDの皆さんにはお褒りなく御活躍のことゝ思います。JCDも出来まして早20年余り今年度から本部一本化により今までの大阪本部は関西支部として新たに発足したばかりでございます。無力な私が支部長という大へん重要な役目をやらされることになり重責を感じております。どうか皆様のお力でお引き廻し下さいますよう宜しくお願いいたします。近頃何かと云われております当会にとって、特に会員同志のコミュニケーションが弱いとの会員の声が多く、関西支部の機関誌として「JCD-KANSAI」を情報委員会を中心に、組織、研究開発の両委員会の協力によって発刊する運びになりました。これを会員間のコミュニケーションの場として会員相互の情報交換、御意見の発表、又賛助会員の皆様からのニュース等におおいに利用してもらえればと思います。外部向けのものでなくあくまでも関西会員の内部だけの情報誌ですので、あまりむつかしく考へないで、気軽に原稿を寄せてもらい、気軽に読んでもらえる楽しいものに育って行けば幸いかと思います。どうか宜しくお願いいたします。

関西支部の各委員会では定例の集会を持ちJCDの今後の方向や会員へのサービスとして多くの会員に参加してもらえる楽しい企画は何か無いかと熱心に討議してもらっております。どうか会員の皆様には出来るだけ多くの会合に積極的に出席いただけるようお願いいたします。

JCDの会員の年齢構成が会の歴史と共に高令化が進み平均年齢が「46才」になっております。もっと若い優秀な人が多く入会してもらい若さあふれるJCDとして活性化も必要かと思っております。会員の御協力を宜しくお願いいたします。お願いばかり述べて来ましたが楽しく参加出来るJCDとし発展を期待し努力して行きたいと

思います。

● JCD KANSAI 発刊によせて 評議員 松田逸郎

何はともあれ情報「交換からスタート」ということでJCD-KANSAIが発刊されることは文句なしによいことだ。われわれのような職人にとって情報は仕事のエネルギー源だ。

情報の道を断たれることは飢死に等しい。情報の蓄積ということもあろうが今日のような状況下にあっては、その蓄積が足を引張ることもある。とに角それぞれの新しい情報の交換のために集まろう。

大阪二十一世紀計画がスタートしてから何やらデザイナー関係の周辺がさわがしくなってきたようである。時折開催されるデザイナー団体の集合に顔を出してみるのだがどういうわけかJCD会員諸兄に出会うことが極めて少ない。

二十一世紀計画では大阪の文化的経済的地盤沈下の復権をうたっているのであるが、その地盤沈下の要因が何なのかについてはあまりハッキリとした結論付がなされていない。

文化と経済は車の両輪のようなもの生産と販売は文化の向上を目ざしてなされるべきだという大原則からはずれてしまって即効的な金儲けの方に偏重しすぎてしまった結果が今日の大阪の地盤沈下につながっている。例えば阪神高速道路などはその実例だ、やすく早く仕上げるために伝統の川を埋めてしまう。後になって水上バス計画などが出てきても、水のイメージの消えた水都大阪では意味がない。つまり金もうけの上に文化を乗せる。文化的なことでもさしづめの勘定に合わんことはやらん。もうかるならば非文化的でもヤリマッセーというのが今日の大阪だ。

文化の上に金儲けを乗せてもらいたい。つまり非文化的なことは儲かってもやらんという心



照明器具の専門メーカー

マックス電機株式会社

- 本社 大阪市城東区鴨野西2-18-9 〒536 TEL(06)967-0140(代) FAX(06)967-0837
- 市販営業所 大阪市城東区鴨野西2-18-9 〒536 TEL(06)961-8888(代) FAX(06)962-5988
- 大阪特販営業所 大阪市城東区鴨野西2-18-9 〒536 TEL(06)967-0123(代) FAX(06)967-0837
- 東京支店 ■東京特販営業所 ■福岡営業所

意気がないと大阪はホンマの文化都市にはなれんと私は思っている。

ところで私達のJCDという職能集団は経済的都市環境を文化的に開発形成するために最も適切な頭脳と技術をもった専門家の集団である。大阪二十一世紀計画の推進には何としても片棒をかつがねばならんポジションにいると思うのだが、どういうワケか今日までの二十一世紀計画の推進計画の中ではJCDの存在がボヤケてしまっている。

あんなことは役所やおえらい学者や文化人と称する特定人のやっている絵そらごとで自分達は現実の世界でジャンジャンやっているんだという言分もあるかも知れないが。

何としても一般市民に存在を知られていないということは大きなマイナスだ。今回のJCD KANSAIの発刊が会員相互の情報交換が目的だとしてもそこから展開してJCDとしての独自の集団のパワーを生み出してもらいたい。今年度は商業環境会議が関西支部担当で開催される。JCD KANSAIの発刊とダブルパンチでわれわれのパワーをPRするための絶好の足がかりだ。

● “ちょっと数字を捨ててみただけ”

評議員 山家一千代

(1) 商業地の業種別集積比率

商業集積	服飾品	文化品	食品	飲食	サービス
A 商業地	20%	19%	48%	10%	3%
B "	27%	23%	48%	19%	0.1%
C "	30%	11%	18%	35%	6%
D "	43%	15%	18%	18%	6%
E "	59%	23%	2%	12%	4%
F "	50%	39%	0%	30%	1%

この数字は、商業地の性格を示しています。

或る商店街、SCの業種別構成は、そのまま、その街を利用しようとする人々の来街距離、性別、年齢別、目的を制約します。ライリーの法則は、商業地の規模に比例し、距離の2乗に逆比例して利用者を吸引すると言いますが、この法則は買回業種に適用できることは御承知の通りです。然し、ミクロ的には、買回業種の集積であつても、その業種によって、可成り吸引力が変るものであることは、上図の表が示している興味深い。然しこれも、時代の推移で変化してゆくことは勿論です。このA B両商業地は地域商業地、C D E Fは大阪ミナミの商業地です。A Bでは食料品が50%に近く、Cは飲食が優位、D E Fは服飾品が優位で都心型。いずれもその個性が顕著です。その反面、各業種別割合が同じような数字に並んでいると、全く魅力のない取柄のない街になってしまうとは面白く、そんな事例が案外多い。勿論そんな街では店舗施設が悪く、街並みが見苦しく不快です。

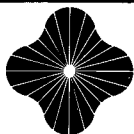
次に、こんな集計はいかゞでしょう。

(2) 買物商品の組合せ

1位、生鮮食品・加工食品。2位、呉服和装品食事。3位、婦人服・食事。4位、子供服・食事。5位、男子洋服・食事。

これは多目的買物出向パターンで、1位の買物に食事はしないようです。この順位は、頻度からみたものですが、2位以下に必ず食事がついてまわるのもうなづけます。喫茶と組合せは11位以下になるのも興味があります。

買物以外の行動では、食事した65.7%、お茶などを飲んだは34.9%、レジャー施設で遊んだ3.8%と少い。これは梅田での数字です。ミナミでは、食事68.7、お茶33.4、レジャー施設で遊んだ5.8と梅田より多くなっています。そして、このような買物とか食事に費す時間、滞留時間は1時間30分～2時間30分未満が最も多く、



商業空間を演出する
yamagiwa

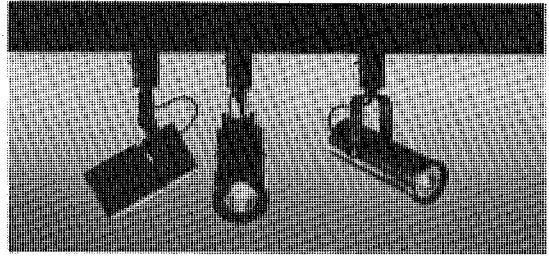
大阪店・06(643)2111(大代) 神戸店・078(241)2111(代)

この滞留時間内に消費する金額は2万円から3万円代が最も多く、金額が多くなると、時間も長くなっています。利用店では百貨店が3時間から4時間の滞留が最も多く、スーパーでは30分以内が最多。専門店も30分未満が最も多い。小生昭和27年頃、大阪府立産業能率研究所商店管理部の嘱託をした頃に、業種の滞留時間に気付き、タバコ店では、釣銭をもらって20秒位であり、生鮮食品店では5～10分、衣料品では30分から60分、呉服、家具店では半日仕事と大雑把な発表をしたことがある。この買物のための滞留時間と店舗施設の関連の着眼は当時初めてであったと自負しているが、たゞ、それだけに終ってしまったのは、凡夫の故です。

今朝、タクシーに乗って運転手さんと話していて驚いたのは、日曜日に限って、朝6時頃から30分間程、堺方面から、なんば附近に若者の車が殺倒するのだそうです。それは、路上駐車場所とりで、早朝からオールナイト喫茶店で暫く時間を潰して遊んで帰るそうで、その理由は、家に居ても仕方がないので遊びに出るのだが、北ではそのような場がなく、シャッターが閉ったまゝですが、ミナミには受入態勢の店が多いのだそうです。日曜日には警察の取締りがないとのことですが、このようなレジャーの滞留時間は、勿論まだ数字になっていません。(引用—大阪府中小企業指導センター調査の各商店街診断報告書及び大阪商工会議所調査の大阪都市圏内住民の買物に関する調査より。)

小泉産業が物販店舗用照明器「レフックス・ダイクロイックシリーズ」20機種を新発売!

●電子トランスを採用し、小型軽量化を実現20機種のうち、12機種についてはIC回路による超小型電子トランスを採用し、従来のローボルトスポット(12Vで容量は新製品と同様)に比べ、形状で3分の2、重量で3分の1ほど小型軽量化を実現しております。



- 照射熱を大副にカットし、品質保持に寄与光源に演色性に優れ、しかも照射熱の少ないローホルテージ(12V 50W)のダイクロイックハロゲンランプを採用し、熱線を80%カット、商品の熱損傷を防止する設計となっております。
- 電子トランス採用により、スロースタート点灯となり、電球の寿命が大幅に伸びるとともに、トランスロスもほとんどありません。

(文責・Y)

'84(第3回)

Nashop LIGHTING CONTESTのお知らせ

- 社団法人 商業施設技術団体連合会・商業施設士会および、松下電工株式会社が主催するナショナルライティングコンテストの本年度の応募要項が発表されました。
- 第3回を迎える今年は、従来からの物販業を対象とした「VMDライティング部門」に加え、飲食サービス業を対象とした「テイストライティング部門」が新たに設置されました。
- 両部門とも、ダイヤモンド賞、ゴールド賞、シルバー賞、Nashop賞が設けられ、各部門ごとに9点ずつ、合計18点の作品が表彰されます。さらに今回から新人賞が新設されました。若手デザイナーの独創的な作品に贈られるこの新人賞は、優秀な新人の登龍門として大きな期待が寄せられています。
- 応募の手間が省ける、カラスライドまたはネガによる応募方法も非常にユニーク。応募の締め切り日は今年の12月31日ですが、昭和57年1月1日から昭和58年12月31日までに完成し、開店した店舗が対象ですから、早期の応募をお勧めします。(S)

■京都大原三千院畔
山菜味 芹生(せりよう)

設計・木寄デザイン研究所
木寄盛次

施工・辻石工務店

工費・約5,000万円

昭和58年 秋オープン

京の土産品も京都駅でも嵐山でも清水寺や新京極でもどこでも同じものが売られ、ひどいのは地方の観光地でも同じものが売られている。観光都市

京都がこれで良いものかと考えさせられた折、芹生様から設計のお話しが有り大原特産の自家製食料品を売る店をということで10年計画でこの店や商品が世にみとめられるよう計画された

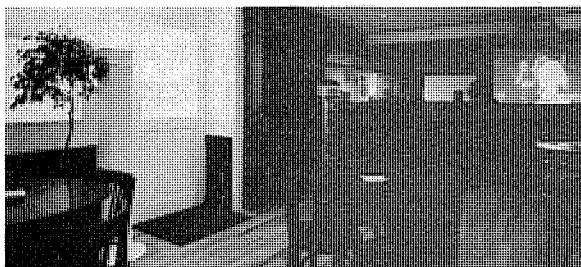


店である。建物も今までの民家風から、女性向きの、ひなびた数寄屋風として、やさしさや、商品そのものの良さが引き立つような商空間とし、落ち着いた、安らぎのあるものにしたかった。

■天神橋筋 ポストンクラブ

設計 俣船場 立花尚登・南栄一郎

天神橋の商店街の中にあるカフェバーポストンクラブはこの4月25日にオープンした、ライトでカジュアルなカフェバーです。アーリーアメリカン調の外装、白色と木彫の落ちついた素材感の中に、アンティーク調の家具と75インチのビデオプロジェクションが発するエキサイティングな映像は、ポップな感覚の中に心安めるトワイライトタイムの演出に新鮮な空間として街の若い女の子たちのたまり場として新しい、天六の顔となることを心から期待しています。



GOOD SPACE FOR OUR LIGHTING

Lighting
ENDO
06-768-7531
Lighting
ENDO

■ バイキングレストラン

ラ・フォーリ

(株)乃村工藝社

クリエイティブ局 西垣雅弘

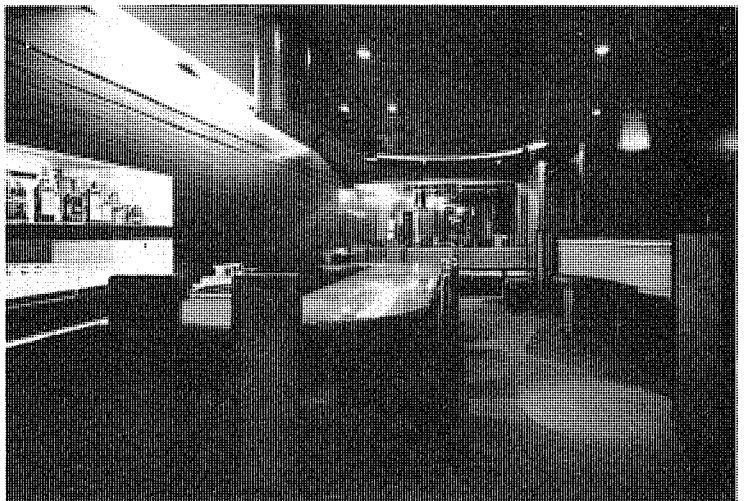
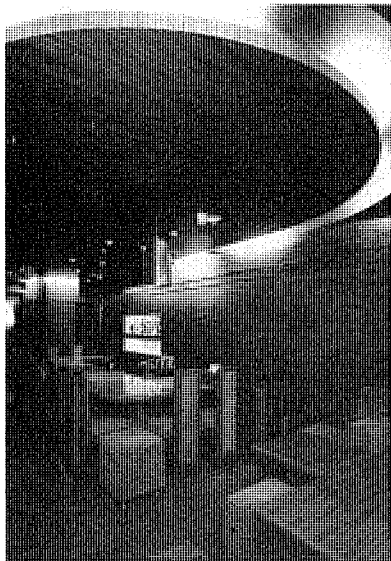


川崎市小美屋デパート7階に、この4月本格的なバイキングレストランとしてOPEN。パーティールームに約50席、バイキングフロアに約150席の構成。低プライスで、ひと時の解放感と、世界の食の楽しみ方を倍加できるように、ナチュラルで重みのあるしやれた時間を過せる大人の雰囲気づくりをねらいとした。

■ エビキュリアン 堂島シヨーキン第2ビル

(株)布谷 設計部 上田義博

営業部 西 勇治



音楽家との交友を持つオーナーの特色をいかしたピアノラウンジでニュージャズが聞ける店として人気を得ています。リッチな雰囲気はアフターダークを楽しむハイソサィティを対象にしていますが、あくまで明るく健康的なものとして企画され素材は天井・壁は桜材、床は大理石、等

EYE 岩崎電気株式會社

本社 / ☎03(452)5351(大代表)

〒105 東京都港区芝3-12-4

大阪支店 / ☎06(372)8879

〒530 大阪市北区中崎2-4-26

'84 商空間デザイン賞決まる

【優秀賞】

	部門
菩提樹のある仏壇店 (はせがわ小倉本店)	北九州市 (1)
エスプリ・香港	香港 (1)
岡慶 東京支店	東京・日本橋 (2)
ソラリステ	福岡市 (2)
カフェバー プラステンシー	東京・渋谷 (2)

【奨励賞】

ブティック ニコル	東京・神宮前 (1)
ラフォーレミュージアム赤坂	東京・赤坂 (2)
T.Oビル	東京・銀座 (2)
オールドニュー	東京・池袋 (2)
新宿ワシントンホテル	東京・新宿 (2)
シェルガーデン	東京・自由ヶ丘 (3)
キャッツシアター	東京・新宿 (4)

【佳作賞】

イッセイミヤケメンショップ (仙台西武 ams)	仙台市 (1)
ビギ青山ビル	東京・南青山 (1)
パシェラボ	東京・赤坂 (1)
ドジハウス	京都市 (2)
バナナの気持はよく分る	大阪市 (2)
西友 能見台店	横浜市 (3)
ザ・スクエア	東京・多摩市 (3)
パークウェイパレード ショッピングセンター いち	シンガポール (3)
花輪・市の広場	秋田県・鹿角市 (4)
グラビ (外構計画)	京都市 (4)

常設各委員会 報告

■組織委員会

3月23日(金) 里吉、柴田、香川、福西、白井
池島、栗林、和田、要、大菅

- 担当委員紹介、理事会及支部関連事項報告
- 委員会方針、運営事業計画の確認
- 年間当委員会計画の事業と担当委員の確認
- 関西支部集会計画の検討

4月27日(金) 馬田、柴田、香川、白井
市川、池島、栗林、要

- 関西支部集報告
- 組織委員会の役割について
- 談話室開催について計画検討

5月25日(金) 里吉、香川、奥田、栗林
要、大菅

●事業計画協議事項及決定事項について

談話室、会員拡充、同好会、夏期ビアパーティ計画

■研究開発委員会

5月14日(月) 野村、旭、渡辺(佳)、西脇

- 委員会のあり方、活動について意見交換
- 外部活動、夏期セミナー、環境会議の企画
- 他委員会の動向報告、当委員会月例会議の推進協議

6月4日(月) 野村、旭、他委員3名
西脇、大菅

- 夏期セミナーの実施計画検討、講師他

■情報委員会

4月9日(月) 山田(悦)、菅野、林、久保
吉田(博)、植村、玉野上
太田、大菅

- 理事会報告、年間事業計画の意見交換
- '84 商空間デザイン賞候補選定について
- 月例会、情報誌発刊等の具体的検討

4月23日(月) 山田(悦)、菅野、蔭山、植村
原田、久保田、玉野上、太田
(オブザーバー) 旭、馬田、大菅

- '84 商空間デザイン賞関西地域候補作品の選定に関する検討
- 第2回理事会(京都・4月14日)報告
- 中国支部との情報参加問題

5月1日(火) 山田(悦)、蔭山、原田
玉野上、太田

- め切った提出作品を検討、'84 商空間デザイン応募作品推せん候補を決定し本部へ連絡。
- 関西支部発刊の情報誌を企画し決定する。次回委員会で具体的な検討と、編集担当チーム3班を決定、チーフに副委員長が当る

5月28日(月) 山田(悦)、植村、久保田
大菅、太田

- 情報誌 第1号発刊の具体的企画会議、頁立て、ロゴ、予算、広告、等の検討に入る。
- 第1回目目標は6月下旬か、7月発刊とする。

6月18日(月)

第1回 JCD-KANSAI 編集会議

山田(悦)、蔭山、原田、玉野上、太田

- 情報誌のフォーマット、タイトル、決定、原稿広告依頼等、担当割にて具体的作業に入る、誌名は標題のように決定。

編集後記

- 創刊号と言う事で諸先輩方のメッセージを中心に編集しました。
- 2回3回と回を重ねる事により充実した情報誌として育てたいと思っております。
- 次回の情報誌もご期待下さい。(Y)